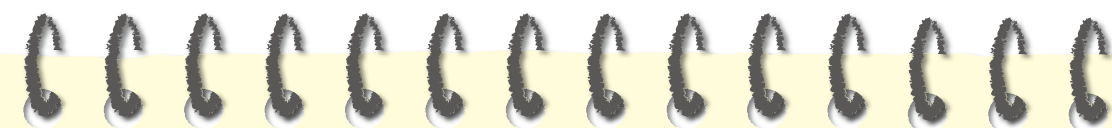
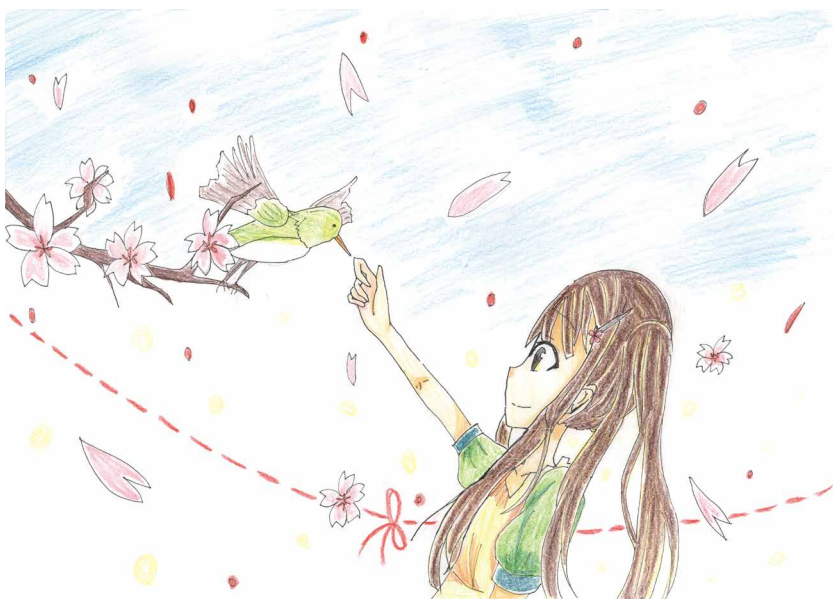


今回の長期入院を機会に、雑誌の表紙に応募できることを知りました。作業療法の時間に勧められたのもあって、好きな絵を描くことにしました。作品のテーマは「迎春」です。桜の花が開こうとしているころ、春の出会いと、鶯と少女が語り合う姿をイメージして描きました。

(木本紅芭)

絵を描いてくれたのは、木本紅芭さんです。彼女は卵巣腫瘍のため化学療法による治療中です。

彼女はもともと絵が好きで、1万円ほどするペンで描くそうです。小児科病棟で開催した音楽祭のポスターを依頼したところ、その日は夜遅くまで描いてくれました。絵を描くことが好きなので、つらい治療にも耐え、将来はイラストレーターになるという夢をもっています。(担当 OT：原田佳典)



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。

吉松羽依斗「大好きなママへ花束を」

ぼくは青色の空が好きです。黄色い太陽が好きです。緑色の植物が好きです。そして、いろんなキレイな色をしている花が好きです。目で見えたキレイな物が心に残って、真っ白な紙の上にキレイな色をつけたら、お花になりました。だから、ぼくは絵を描くことが好きなのです。

(羽依斗)

小学6年生の息子の描く作品からは、見たものの、感じたものがそのまま写し出されているように思います。景色を見つめるキラキラとした表情、机上での作業を真剣に取り組む姿、本当に愛しいです。そんなかけがえのない息子から、また一つ、素敵な贈り物もらい、あたたかな気持ちになります。(母)

